

**JAPANESE EVANGELICAL  
MISSIONARY SOCIETY**

948 East Second Street  
Los Angeles, CA 90012-4317  
Tel: 213.613.0022  
E-Mail: info@jems.org  
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ \_\_\_\_\_ 捧げます。( \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 年まで)
- 今回 \$ \_\_\_\_\_ 捧げます。

Name \_\_\_\_\_ Phone \_\_\_\_\_

Address \_\_\_\_\_ City \_\_\_\_\_ State \_\_\_\_\_ Zip \_\_\_\_\_

E-Mail \_\_\_\_\_

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

**JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022**

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子

彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。(イザヤ53:11)

起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上へのぼったから。(イザヤ60:1)

身近な者や親しき友が、時として、苦しみにあい、闇の淵を彷徨っているのを見ることがあり、祈ってますよと声をかけるのもためらうことがある。優しさをもってよりそい、癒していただきたいと切に願う。闇の向こうには光がみえることを信じてほしい。忍耐をもって見上げ続けることができるお方を知る幸せに感謝。



## 永遠の愛をもって

バンクーバー日系人福音教会牧師

福迫徹也師

私は長野県で牧会をした後、2001年から、カナダのバンクーバーの日系人教会で牧師を勤めております。今回初めてマウント・ハーモン修養会に妻と共に参加することができ、多くの励ましと祝福を頂いたことをご報告させていただきたいと思います。

今回の日本語部のメッセンジャーは、南大阪福音教会牧師の福野正和先生とカナプレイズチャーチ牧師の長沢崇史先生でした。全くタイプの違うお二人でしたが、それぞれの違った角度からのメッセージに数多くのことを教えられました。

福野先生はエレミヤ書の背景から忠実にみことばを解き明かしてください、みことばの深みに導いてくださいました。また長沢先生は豊富で適切な例話を中心に大胆且つ情熱的にみことばを語ってくださいました。毎晩のように行われた賛美の時間においては、主の愛と御霊の臨在に触れられ、参加者一同が天国の前味を体験できたと思います。

今年の修養会のテーマは「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した」(エレミヤ31:3)でした。エレミヤは「嘆きの預言者」と言われるほど、その預言者としての生涯は苦難と困難の連続でした。なぜなら、エレミヤが預言者として活動した時代は南ユダが崩壊し、イスラエル民族はバビロンに捕え移されるという、イスラエルの歴史で最も暗い、悲劇的な時代だったからです。



私達がこの地上での生活で暗い、悲劇的なことを経験する時、神様からの愛を疑問に思ってしまうかも知れません。神様の存在さえも疑問に思ってしまうかも知れません。しかし、神である主は、主イエス・キリストを信じる私達を永遠の愛をもって、愛しておられるお方です。それは、私達がこの地上の生活でどんな苦しみや困難を経験していたとしても変わらないことです。

マウント・ハーモンでは、お二人の先生との貴重なお交わりの時を持つことが出来、また参加者の方々とも親密なお交わりの時を持つことができたことを深く感謝しております。

長沢先生のメッセージと賛美の素晴らしさには感動するばかりでした。また福野先生との個人的な会話にも心動かされました。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(IIコリント5:17)から、クリスチャンがキリストにあって既に神様の新しい被造物とされていることに目が開かれ、福音の恵みと救いの喜びを再確認することができました。

エレミヤ書31章31節に「見よ。その日が来る。-主の御告げ- その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。」とあります。この箇所は、ヘブル書8章8節「主が、言われる。見よ、日が来る。わたしが、イスラエルの家やユダの家と新しい契約を結ぶ日が。」を見る時、主イエス・キリストにあって神様の約束の成就であることが分かります。

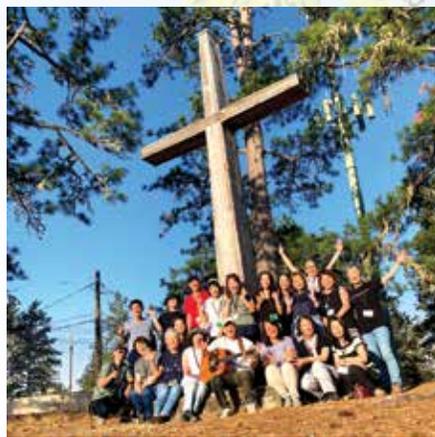
主イエス・キリストを信じる私達には、神様との新しい契約が成就しています。

私達は神様によって既に「新しく造られた者」になっています。神様の子供として既に「新しく生まれた者」になっています。主イエスの十字架によって私達の罪の贖いがなされ、天の御国での永遠の命が約束されているのです。ですから、神様からの永遠の愛と祝福を受けていることを忘れずに、御霊とみことばによってそれぞれの場所で歩んで行きましょう。

主が許してくださるのであれば、また皆さんとお会いしたいと願っています。

# 神の愛に注がれた マウント・ハーモンでの交わり

関東栄光教会 小池恵子



私がマウントハーモンに参加するきっかけになったのは、娘が病に倒れて奇跡的な癒しと回復を体験し、娘が参加するのでその付き添いを兼ねて、また取りなしの祈りをして下さった沢山の方々に感謝の気持ちをお伝えしたいと思い参加しました。

修養会場に入ると、カナダ、シアトル、テキサス、カリフォルニア、ハワイ、日本などから、沢山の方々が、英語部、日本語部に分かれて来られておりました。英語の話せない私が言葉の壁を感じる事なく、日本語部の皆さんとお交わりが出来て、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

福野先生のメッセージ、長沢崇史先生の賛美とメッセージ、お二人の先生が同じ信仰の土台に立たれて語られたメッセージは感銘深いものでした。聖霊様の導きを感じ、とても恵まれました。中には主の働きをされておられる多くの先生方もおられ

るようでしたが、皆さんお一人お一人が主との交わりのなかに置かれているのを感じることができました。神の愛が注がれた神の家族はこのように同じ父なる神を持っている。ひとりの神にみんなが仕えている天国の素晴らしさを思い浮かべました。これだけ違った環境から来られ、今日会った方々なのに、御霊の実に表される一愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制—に分けられたスモールグループでみ言葉、愛を分かちあうことができるのは喜びです。その恵みの発表会の準備はそれぞれ和気藹々とした楽しい時間でした。

朝の祈りの時間においても、小さなグループで与えられたみことばに心を留め、互いに祈り合うという時間がありました。その中で、私は以前イスラエルのキブツで生活してイスラエルに重荷が与えられたという姉妹とみことばの分かち合いを持つこ

とが出来、同じ思いを持った姉妹と連絡先を交換しました。

こんな多くの恵みが与えられるとは思ってもみませんでした。神さまが私をマウントハーモンに招いて下さった事を感謝します。修養会で学んだ事は沢山ありますが、改めて、イエス様は復活で終わりではなく天に挙げられて神の右の座に着座されているお方です、と福野先生が語られたことは本当にその通りですと思いました。だから私はあらゆる事に打ち勝つ事のできる希望を持つことが出来る。主に感謝しながら主を賛美しながら主と共に毎日を歩む。これが信仰の積み重ねであり成長していく過程であることを語られました。そして自分の教会で主に仕えて行くことが神さまの御心だと思いました。この修養会を心から感謝致します。

# マウントハーモンの 思い出2024年

シアトル日本人長老教会 田谷満喜子



マウントハーモンにまつわる伝説が、私のシアトルの教会にあります。「その昔、日系三世がティーンエイジャーだった頃、二世の牧師が大英断でスクールバスをチャーターし若者たちをマウントハーモンに送りこんだ。すると教会の礼拝が新しい賛美で活気づき、皆の信仰が生き生きとした。」というのです。そんな噂のキャンプに、2010年に初めて日本語部の婦人3人で参加してみました。確かに素晴らしいリトリートの経験でしたが、期待した日本語礼拝の賛美に変化は起こりませんでした。が・・・、キャンプで知り合ったピアニストの小堀英郎さんが翌春シアトルに伝道コンサートでいらしてくださる幸運に恵まれ、3人の貴重な思い出となりました。

それから14年経った今年、他教会の友が長沢崇史先生が来られるからと誘われて久しぶりにマウントハーモン参加を考えました。しかし、期間が一週間と長く経費も掛かるので、一旦は行くと答えても迷いがありました。そんな時年末に、教会の若いグループについてイクイッパーカンファレンスに初参加、そこで思いもかけずコーディネーターの藤本三奈子さんとバツリ再会。「登録はこの頃オンラインですよ」と温かい助言を頂き、どういふわけかこれは絶対行くべきだとゴーサインを出された気持ちになりました。ところが1月末の検診で乳癌の疑いが出て私の高揚感は一気に下降。登録の日と前後して種々の検査が立て込み、どうしてこの時期に厄介な病が発覚したのかと、御心が分かりませんでした。イクイッパーカンファレンスでは、関れい牧師夫人とスモールグループがご一緒になり親しくお話頂き、癌の証を御自身の口から伺ったのはさては主が備えてくださったのか！ 乳癌の準備をさせる

為に神様が用意して下さった、と思っても、なぜか腑に落ちないような気持ちがしていました。再度、頂いた証詞を真剣に読みましたが、このような篤い信仰からかけ離れた現実の自分の姿が見えて来て、癌に負け信仰も助けにならず二重の苦しみを受けるかも知れない・・・と、病に付随して恥と罪がまわりついでくる心の厄介さを経験しました。

しかし自分の弱さを突きつけられたからこそ、すれすれで参加できたマウントハーモンの一週間は神様からの贈り物だったと今は分かります。放射線治療が終わった4日後に予定通り飛び立った時、心は晴れやかでした。皮膚が更に茶色くなり疲労感が増すと警告されていた週に、美しい山で大勢の信仰の兄弟姉妹に囲まれて賛美と礼拝で過ごせたのは特効薬でした。毎朝の十字架丘への散歩とラジオ体操。清い水に足を浸し川辺を歩く森林浴の体験。何より熱い賛美とメッセージ。驚いたのは私より深刻な病で一か月も入院しておられた方が健康を取り戻し賛美の奉仕をされていたことでした。講師の福野正和先生も大変な手術をくり抜けて祈りの内に長い空の旅をしてお越しくださったことが分かりました。病気を抱えているのは何も私一人ではない、障害物だと思っていた病も必要なことだった、と安らいだ気持ちになりました。

エレミヤ書は、重く厳しく長い書です。ところが、福野先生はその書から一生懸命慰めのメッセージを語り掛けて下さいまし

た。帰ってからエレミヤ書を読み通してみ、刺すような強い神様の言葉にたじたじとなる時、あの講演があった山小屋の場面を思い浮かべて気を取り直します。賛美を歌ったとき部屋中に倍音が響いて良い気持ちになった事。後ろからデスクトップの音が聞こえて14年前を思い出した感激。そして福野先生の口調をまねて「エホヤキム!エホヤキン!」とおどけて語る出演者に大笑いした寸劇、そのなごやかな祝福を胸に浮かべながら、ユダの国が滅びていく時の王たち祭司たちの行動とエレミヤの言葉を読み続けイエス様のことを考えるとき、厳しさの次に来る神様の意外な解決が私達の希望なんだ、イエス様が宣言された“幸い”を魂で受けて応答する時、喜びがあり信仰が生きるのだ、と修養会の体験を反芻しながら御言葉から励ましを受けています。

伝説は繰り返されるか? 聖なる希望を頂いてシアトルに帰ってきました。以前は神様の働きを自分の思いで見たいという態度でしたが、今年は神様の前にへりくだらされて、思いがけない所に働いておられる主の御業に目を凝らすことが大切だと教えられました。困難の中でも神様への感謝を発見して、自分を忘れるような感動が貴重なんだとわかってきました。忍耐と慈愛の神様がこの地でなして下さる救いの御業を魂の目で見る事が出来るよう、主の前にひれ伏して、賛美と祈りを捧げ続けていきたいと願っています。

## 日本語部マウントハーモン修養会

JEMS日本語部コーディネーター 藤本 三奈子

1950年、日系教会の霊的な覚醒のために、二世牧師たちがマウントハーモンで集まり祈りました。第二次世界大戦後、日系人教会は分散し、落胆し、相互の交わりと励ましが大いに必要とされていたのです。この集まりから、第1回JEMSマウントハーモン修養会が生まれ、JEMSの始まりともなりました。その時から数え、75回目を迎えたJEMSマウントハーモン修養会が、6月30日から7月6日まで豊かな祝福のうちに持たれました。今年は75周年の記念修養会ということで、日本語部の講師はRCI南大阪福音教会の福野正和牧師とカナ・ブレイズ・チャーチの長沢崇史牧師をお招きして、「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した」(エレミヤ書31章3節)のテーマでメッセージを語って頂きました。来年、2025年のJEMSマウントハーモン修養会は2025年6月29日-7月5日)です。申込み開始は1月頃を予定しています。是非ご参加下さい。

